

こぶしの花*

特集

学長座談会

地域で活躍する
グローバル人材を養成する大学を目指して



春のキャンパスは花盛り ～2023年度卒園児の記念樹木プレートが木の名前を教えてください

青森中央学院大学	6
青森中央短期大学	8
青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校	10
附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園 ...	12
学園共通	14

地域で活躍する グローバル人材を 養成する大学を目指して

青森中央学院大学
学長・教授

佐藤 敬

青森中央短期大学
学長・教授

山田 順子

[聞き手] 学校法人青森田中学園事務局長 石田 壮平

新たな短大学長が 就任しました

石田: 山田順子学長は、今年新たに青森中央短期大学の学長に就任されました。本学の印象はいかがですか。

山田: 私は2014年まで数年間、青森中央短期大学食物栄養学科の解剖生理学の授業と実習の一部を担当していました。10年ぶりに来たらすごく建物が増えましたね。

石田: 7号館が増設されたあたりですね。当時は第二体育館もありませんでした。

山田: 前職は弘前大学で教員をしており、専門は脳の生理学です。弘前市の5歳児健診や、発達支援にも関わらせていただきました。国立大学と私立大学の違いもあるのですが、こちらは何かと自由度が高いです。学生も元気がよくて、授業にもぎやかですね。学生の反応が良く、質問にもすぐ答えてくれます。頑張ってるな、という印象です。

石田: 山田学長はその他にもいろいろな経歴をお持ちと伺っています。

山田: 私は音楽系大学を卒業したのですが、昔から『こころ』について知りたいという思いがあり、30代で新たに勉強を始め、いろいろご縁があって今の仕事に就いたのが40代になってからで

す。18歳で自分の進む道を決めてこの学校に来て学んでいる学生さんたちはすごいと思います。

石田: 趣味も多彩とお聞きました。

山田: 私の座右の銘は「買わない宝くじは当たらない」。とりあえずやってみようってことなのですが、これまで未経験のバイオリンを習っています。また、青森のガラス作家さんにガラス細工を教わっていて、今日つけているペンダントも自分で作りました。あと「筋トレ」と「猫」。筋肉は鍛えればちゃんと成果が出ます。「猫と筋肉は裏切らない」。

石田: 4月のオリエンテーションで学生を前に、「なんでもやってみる」というお話を聞いて、すごいと思いました。

山田: こういう生き方もあると学生にも知ってもらえたらいいかなと思って、お話ししました。

石田: 実は私も、今年4月から新たに事務局長となりました。私は入職12年目、今年40歳です。

佐藤: 以前は他で勤めていたのですか。

石田: 大学院を出てから、東京で4年ぐらい勤めて地元・青森に帰ってきました。ちなみに私は「犬派」です。ところで、佐藤敬学長も昨年は青森中央短期大学の学長を兼任されていました。

佐藤: 短大学長を任されて感じたこと

は、短大は教学マネジメントがある程度完成していることです。現在、短大を取り巻く学生募集の状況は厳しいのですが、この短大を何とか維持していければと思っています。青森中央短期大学は、地域からの人材の需要がものすごく大きいです。日本の短期大学は日本全体にとっても、重要といえる専門職を輩出しているので、このまま発展させていければすごいことだと思います。

石田: 青森中央短期大学の課題は何かでしょうか。

佐藤: 学園全体のキーワードの一つとして「国際化」がありますが、短大を国際化でどうやって発展させていくかが、これからの課題です。山田学長は海外でのご経験もあり、これからの方なので、末永く短大を導いていただければと思います。

山田: よろしく願いいたします。

国際化の動きが活発に 地方にこそ グローバル人材は必要

石田: 日本は2020年開けて間もなくからコロナ禍でした。佐藤学長が青森中央学院大学の学長に就任して最初の年でしたね。

佐藤: 当時はご飯も一緒に食べに行けませんでしたね。



青森中央学院大学 学長・教授
佐藤 敬（さとう けい）

北海道深川市出身。弘前大学医学部卒、弘前大学大学院医学研究科修了。米国ユタ大学留学。弘前大学医学部講師、助教授、教授などを経て、2006年に医学部長、2012年に弘前大学学長。2020年より現職、2023年度は青森中央短期大学学長を兼任した。

青森中央短期大学 学長・教授
山田 順子（やまだ じゅんこ）

神奈川県横浜市出身。国立音楽大学調律科卒、河合楽器製作所へ入社。その後、京都工芸繊維大学応用生物学科卒、京都工芸繊維大学大学院修了。三菱化学生命科学研究所で特別研究生、博士号取得。静岡大学助手や浜松医科大学、ヘルシンキ大学の客員研究員を経て、帰国後は弘前大学へ。弘前大学医学部保健学科作業療法学専攻教授。今年4月より現職。

高校時代から人との接触を避けていて、学生も消極的な感じでした。コミュニケーションが下手なのではなくて、コミュニケーションをとろうとする姿勢が後退していた。でも、今年の新入生は本来の若者に戻ってきている。やっぱり、教育って勉強だけじゃないとすごく強く感じます。

石田： いろいろな先生方からも学生が元気だと聞きますね。

山田： この間までマスク姿しかわからなかったという学生もいましたからね。

佐藤： はい。そのようなコロナ禍を経

ていろいろ変化がありましたが、良かった点としては、オンラインで何でもできるようになったことが挙げられます。授業だけでなく、ICTの利用が飛躍的に進みました。

石田： 研修会等は会場とオンラインと、後日のオンデマンドを併用して開催できるので、便利です。本学では皆さんMicrosoft Teamsも使えますし。

佐藤： 私も会議はオンラインだから、出張しなくてもよくなりました。一日移動にかけなくても、オンラインなら時間が空いていれば出席できるので便利です。

石田： また、最近の動きとして、青森県では若者の県内定着に取り組んでいて、本学としても積極的に取り組もうと思っています。

佐藤： 日本の私立大学の半数は定員

割れしているという事実。その先にあるのは、地域人材の確保が難しくなって地域が衰退していくということです。これは大学だけではなくて、地域全体の課題です。地域に若者がいなくなったら、大学だけでなく企業が困るわけです。最近、少し明るい話題としては、国際化の動きがコロナ禍前に戻りつつありますね。

石田： ありがたいことに、本学も海外から声がかかる機会がすごく多くて。特にアジア。「2週間後に30人連れて行きます」というような話がポンと来たりして、アジアの方はスピード感があります。「グローバルな人材を養成することには以前から取り組んでいましたが、「地域で活躍する」というポイントは、やはり大事にしなきゃいけないところですよ。

佐藤： 青森県のリングは1千億円産業といわれていて、そのうち100億円は輸出している。これは青森県のリング生



産者とリンゴ輸出業者だけの話ではなくて、関わっている自治体や金融機関等も、地域全部で『グローバル』になっているんですね。また青森県は、地方の中ではインバウンドも成功している。それらを考えると、地方にグローバルな人材は必要なんですよ。

山田: 先日、山梨県のベトナム人労働者のニュースを見ました。ベトナムにいる家族の医療費を山梨県が補助するという内容です。どこの地方も、ゆくゆくは外国人労働者を受け入れていくようになるのではないかと思います。青森県内はどうでしょうか。

佐藤: 業界によっては一生懸命受け入れているところもあるんですよ。リンゴ産業も、弘前の農協では、ベトナム人がたくさん働いています。

山田: 減ることはなくて、今よりも増える可能性はありますよね。今からでも普通に外国人と接することには慣れておくといいですね。また、一度海外に出て、海外を知ることも大切です。

佐藤: 昨年度、グローバル人材養成プログラムで海外の長期インターンシップに行った学生は、すごくいい経験をしたと思います。長い学生だと6か月と言っていたんですが、もう何年も留学してきたような雰囲気ですよ。

山田: 勉強に行くのと仕事するのとではまた違いますからね。

石田: 私は『外国』という概念がなくなしてほしい。それでこそ、グローバルな人材になれると思っています。また、日本でも『地方』と『都会』という壁がなくなしてほしい。

佐藤: 分野によっては国の境って無意味になっていますよね。このアカデミアの世界でも率先して主張していかないと。本学には、外国人留学生がおよそ1割在籍しています。だから、外国人留学生と日本人学生の交わりがもっとあってほしいと感じます。

地域で、世界で、 グローバルに活躍する卒業生

石田: 今年5月、本学の卒業生で芸能活動をしている王林さんが本学アンバ

サダーに就任しました。この頃では、卒業生もいろいろなところで活躍しています。歴史の長い短大はもちろんです。青森中央学院大学を卒業した1・2期生

たちも40歳を超えて、中堅として社会を動かす立場になっているようです。

佐藤: 先日、同窓会に参加したのですが、お話を聞くと、それぞれ重要なポジションでお仕事されていました。起業したり、税理士や議員さんになっている卒業生もいますね。

山田: 先日お会いした銀行のマネーコンサルタントが短大出身でしたよ。

石田: 私も車検対応をしてくれたディーラーが卒業生でした。本学は県内就職率が高いので、結構あちこちにいるんです。

佐藤: 毎年県内就職率は50%超えていますよね。そういう意味でも、間違いなく地域貢献度は高いです。特に短大は歴史が長いから、地域で活躍している人材がいっぱいいるでしょうね。

石田: だいぶ前から、卒業生の子どもたちも本学に入学していますよ。

佐藤: これはぜひ、活躍する卒業生を紹介したいですね。同窓会誌とか、卒業生をまとめて紹介するメディアがあればいいですね。

石田: 同窓会組織を活用して、卒業生同士のつながりが持てるとよいですね。世界中で活躍する留学生もいますし。

佐藤: 例えば、秋田の国際教養大学では、欧米も含め全世界にグローバルに対応しています。本学は今の取り組みや事業を継続しながら、国際教養大学に匹敵するようなグローバル化の進んだ国際的な大学になればいいですね。

石田: いいと思います。英語が話せるとかそういうことではなく、心のグローバル化。



佐藤: もちろん、英語も取り入れていかなければならないけれども、それよりも考え方ですね。幸いにして、これまでの国際化の実績があるので、それを伸ばし

ていけばいいんじゃないですか。そして、経営が安定した大学。しっかりと経営することで、しっかりとした教育研究ができ、しっかりとした大学の在り方を目指せると思うんです。そのためにも、短大と四大が協力し合うことが大切。

石田: 今もいろいろなところで連携する土壌はあるので、それをより教育的な部分で繋げていければよいと思います。

山田: 私が社会人で大学に入学したときに思ったのは、「この授業料でこんなに学べるんだ」ということでした。本学だってそうです。短大で取れる資格を個別に受講したら、すごい金額になる。大学って、学びたいと思う人にはウェルカムだし、学ぼうと思うといくらでも学べる場所だと思います。だから地域の人たちにも、「聴講どうぞ」とか、「経営のノウハウを勉強しませんか」、というのでもいい。入学するには敷居が高くて、そんな人たちが増えてくれば「じゃあ、うちの子ども入れてみようかな」とつながっていくかなと思います。

石田: そうですね。地域にあるということを前提としながら、いろいろな国から来る優秀な人材に引っ張られて、地域の人たちもどんどん育っていく、といういい結果を目指したいですね。



“等身大”のその先へ

青森中央学院大学・青森中央短期大学のアンバサダーに王林さんが就任しました

青森中央学院大学卒業生でタレントの王林さん（経営法学部2020年度卒）が、2024年5月1日より、青森中央学院大学・青森中央短期大学の2024年度アンバサダーに就任しました。TVCMやYouTube動画・パンフレット等を通じて、学生時代の実体験をもとにした本学の魅力について、広く伝えていただきます。



特別コンテンツ公開中！



王林センパイに聞いてみた！ 学生インタビュー

～在学生が語り継ぐ王林伝説～（前篇）
～在学生と本音トーク～（後篇）

王林×在学生の対談企画で、王林さんの学生時代を探ります。



令和5年度「学位記授与式」 ～シークレットゲストとして 王林さんが登壇しました～

めでたく卒業を迎える後輩たちへ、シークレットゲストとして登壇した3/17学位記授与式での激励のスピーチです。



青森中央学院大学TVCM 「等身大のその先へ」篇・ 「学生インタビュー」篇

青森県内放送3局で絶賛放映中です。

青森中央学院大学 2025 パンフレット

受験生サイトからデジタルパンフレットを見ることができます。
（近日公開）



王林（OURIN）プロフィール

1998年、青森県弘前市生まれ。小学3年から「弘前アクターズスクール」に入り、2007年から『アルプスおとめ』・2013年に姉妹グループの『りんご娘』に7期メンバーとして加入し、2022年3月までリーダーとして活躍。故郷、青森県をこよなく愛し、第一次産業や地方活性化のために芸能活動に情熱を注いでいる。

～王林さんより～

この度、私、王林は、母校である青森中央学院大学と青森中央短期大学のアンバサダーに就任させていただきました。

青森あつての王林が芸能活動に励む中で、アパレルブランドの立ち上げなど、青森愛を込めた活動ができている原点には、郷土や伝統を経営学の視点で追求した青森中央学院大学での学びがあります。

今は、誰がどこにいても、同じような勉強や仕事ができる時代です。私は、そんなメリットを生かし、地域という視点を大切にしながら学べた経験を、多くの人たちに伝えていければと思います。

“私が私になれた”母校はもちろん、進学に迷っている多くの受験生の力になれるよう頑張ります！



■「八甲田牛コンビーフ」を開発、ふるさと納税返礼品に



経営法学部4年 山田 顕司

私たちは、ゼミの研究テーマである「農業の6次産業化」の考えを用い、「八甲田牛商品開発事業」に取り組みました。この事業は、青森市のブランド牛である「八甲田牛」の価値と認知度の向上を目指すことを目的として行った、産官学連携事業です。

私たち学生と青森市、地元企業の「株式会社いしか」が連携し、様々なイベントでのアンケートや試食で情報を収集し、何度も打ち合わせをして商品を決定しました。試作や試食を繰り返しながら完成に近づくまでの期間は楽しく、完成の際にはお互いの事情を考慮しながら譲

歩し合ったりと、難しくて大変な思いもしました。苦労のかいあって、商品は完成試食会等で様々な人から高い評価を受け、青森市のふるさと納税返礼品にも登録されました。



▲完成報告を行う山田さん

今後の取り組みとして、八甲田牛や商品の魅力をたくさんの人に知ってもらうように、一般販売の実現に向けて活動する予定です。記事をご覧になった皆さん、応援よろしくお願いします。



青森市内の学生たちの活動を動画で紹介する「AomoLIVE SPECIAL -Aomori6on (アオモリロックオン)」では、青森中央学院大学と青森中央短期大学の学生が考案した八甲田牛を使用した商品の発表会「八甲田牛商品開発完成報告・試食会」の様子を紹介しています。



■弘前公園観桜会を開催しました



2024年4月20日、新入生歓迎のための弘前公園観桜会（国際交流センター主催）が行われ、留学生・日本人学生合わせて54名が参加しました。参加者は、学生チューター企画の交流ゲームで親交を深め、写真を撮り合ったり出店の食事を堪能したりと、思い思いに桜満開の弘前公園を満喫しま

した。参加した留学生からは、「人生初めて日本の花見を見て、すごく感動しました。色々な食べ物を売っている屋台などすごく楽しかったので、また行きたいです」（韓国からの留学生）、と感想をいただきました。また、「弘前で桜を楽しむのは心が躍る経験です。桜の木の下を散歩すると、まるでピンク

色の海にいるような気分になります。桜の香りが漂い、幸せな満足感が心に広がります。友達と一緒に花見をすることで、喜びと感動を分かち合い、この瞬間をより貴重で忘れられないものにします」（中国からの留学生）と感動のコメントもいただきました。



■看護学部まちなかキャンパス公開講座に参加しました

看護学部1年 飯田 菜憂

2024年5月25日、「基礎看護学実習I」の一環として、看護学部まちなかキャンパス公開講座「ACP（人生会議）って知っていますか？」（講師：熊谷和可看護学部助教）に参加しました。受講者とお話をしたり、「どせばいい？カード」という「死」について楽しく語り合うカードゲームを行っている様子を見学しました。

受講者とお話をした際に、うまく会話を広げることができず途切れてしまい、どうすればよいのか悩んだ場面がありました。先生からは「話のテーマを出す

ときは、理由をつけながら会話を広げること、相手に関心を持つこと、会話の引き出しを増やすことが大切だ」とアドバイスをいただき、大きな学びを得ることができました。

カードゲーム中は、なぜそのカードを選んだのか、会話に注目しました。選んだカードから対象者が持つ多様な価値観や考え方が語られる中で、たくさんの気づきや新しい視点を見つけることができました。今回の実習で今までよりも一歩前進することができたと感じ、次につなげられるようにしたいです。



■ミライのおしごと体験イベントに参加しました

看護学部4年 七日市 陽菜香



今回、沐浴体験のサポーターとして「おしごとゼミ」に参加しました。小学4年生～中学3年生までの子どもと保護者を対象に、沐浴とオムツ交換を体験していただき、私は体験のサポートをしました。参加してみて、小学生のうちから看護の仕事に興味を持っている子が多いということや、参加してくれた小学生の中に男の子もいたことから、看護師という職業は男女関係なく憧れの職業になっていると気づきました。

また、子どもに対する声掛けとして「上手だよ」などと良い部分を見つけ褒

めることを意識し、子どもが主体となって積極的に体験をしてもらうように関わりました。その結果、子どもからは楽しかったと言ってもらえ、子どもの自尊心を尊重するような声掛けを意識することが重要だと感じました。



保護者からは将来について考える良い機会になったと言葉をいただくことができ、私自身もやりがいを感じ、非常に良い経験となりました。この経験を、今後の実習や将来に活かしていきたいと思います。



【高大連携】研究紹介

看護学部准教授 松島 正起

【研究・専門領域】基礎看護学、観察、注視、認知、看護過程

研究テーマ

看護行為場面における看護学生の視線と認知

ナイチンゲールは、「看護覚え書」のなかで「正確な観察習慣を身につけないかぎり、われわれがどんなに献身的であっても看護師として役に立たない」と述べています。私は、患者さんと接する場面で、学生がどのように患者さんへ視線を向けているのか、人の視線を測定できるカメラを用いて調査しています。研究成果は、どのような場面

であっても患者さんの状態を観察し、ケアできる看護師を育成するために役立つと考えています。



高校生の探究学習と大学の研究をつなぐ教育資源活用促進「探究学習サポート」ページをご活用ください。



■小中学生対象「ミライのお仕事体験イベント」開催しました

幼児保育学科准教授 木村 貴子

本イベントは、小中学生を対象として昨年3月に初めて開催しました。2024年も告知と共にすぐに定員へ達する人気のイベントとなっており、当日は同伴者も含めて100名程の方々が本学に集まりました。お弁当作りや音楽レクリエーション、赤ちゃんのお世話や園芸療法等の体験を通して、栄養士、保育士、看護師、介護福祉士のお仕事について楽しく学んでいました。

本イベントを開催するに至った経緯としては、青森の少子高齢化による労働力人口の減少に対する懸念がありま

す。ITやロボットがいくら人の代わりに働く時代となっても、人間でなくてはできない仕事があり、本学で得られる資格は全て人と人が関わり合っ

て思い出して、また本学に足を運んでくれたらと期待しています。



▲「保育士のおしごと」みんなであそぼう!～音楽レクリエーション～での一コマ

「栄養士のおしごと」紹介

栄養士のお仕事体験では、本学講師で管理栄養士の辻村明子先生による『バランスの良いお弁当はどう作る?』をおこないました。栄養士は栄養バランスを考えて献立を立てる国家資格です。この体験では、参加者が持参した自分のお弁当箱に入る量や、ワークシートを使って献立を考えながら、実際に主食3:主菜1:副菜2の割合でお弁当を詰めました。

主菜は、サケの塩焼き・ミートボール・厚焼玉子などといった、肉・魚・卵な

どのタンパク質が多いおかずから選びました。副菜は、ブロッコリー・ひじき煮などといった野菜・きのこ・海藻など

のビタミンやミネラルが多いおかずから選びました。子供たちはお弁当作りを通じて、栄養バランスを学びました。



■「あおもり食育推進大会2024」に出展しました

2024年3月8日に行われた「あおもり食育推進大会2024」に、食物栄養学科の教員と学生が出展・参加しました。食育活動の取り組みや、学生が作成した野菜レシピの紹介、授業で作成した食育かるたなどの教材展示を行いました。



参加学生は、「さまざまな食育のカタチがあって、栄養士として食育を行うための学びをたくさん得ることができました。私は、栄養教諭二種免許の教育実習を控えていますが、教材づくりのヒントをたくさん得ることができました。他の出展者の方の話し方、身振り手ぶり、表情なども勉強になりました。」と話していました。

青森中央短期大学では、地域の方々の参加を目的とした食育活動を実施しています。三内丸山遺跡で発見された板状土偶を模した『べこもち作り』、広い敷地内で収穫できる果物をつかってお菓子作りを行う『食べよう青森♪樹

の実プロジェクト』などの課外活動を通して、学生と共に、食育で青森県を元気にする大学を目指しています。さまざまな食育活動に地域の方々のたくさんのご参加をお待ちしています。



■ 青森商業高校でのお弁当開発

2024年4月24日、青森商業高校3年生の課題研究の時間に、連携講義「青森県産品・郷土料理を活用した弁当の開発に向けて」を食物栄養学科講師の池田友子先生が行いました。池田先生は青森の郷土料理を研究し、また調理実習を通じて学生に伝えています。イトーヨーカ堂と本学学生が連携し、郷土料理を交えた地産地消弁当の開発・販売にも、長年取り組んできました。

青森商業高校生徒の課題研究のひとつである青森県の郷土料理をもとにした弁当開発を行うグループに対し、郷土料理に関する知識や弁当開発の実際を解説しました。「商品化の際の工夫やこだわり」「商品アイデアの生み出し方」「過去に好評だった商品の共通事項」などについて質問があり、弁当開発の過去事例などを紹介しました。生徒たちは今後も検討を重ね、オリジナル弁当の開発を行い、本

学食物栄養学科で試作や講評等のサポートを行います。食物栄養学科では、高大連携事業を通じて、地元青森の高校生とともに課題研究（商品開発など）に取り組めます。



■ NTTUとの「共同教育プログラム」が開始しました 幼児保育学科准教授 兼平 友子

2024年4月から協定校であるベトナムのグエン・タット・ティン大学（NTTU）の幼児教育学部生が、日本の幼児教育について学ぶ「共同教育プログラム」が実施されています。NTTU

の学生が本学幼児保育学科の授業科目「幼児の栄養、教育、健康等」を受講する、というものです。

2018・2019年には、ベトナム幼児教育者に日本幼児教育についての研修プログラムが本学で実施され、日本幼児教育の基本や教育施設、食育等についての講義、附属第一幼稚園での参観・体験、子どもの栄養・幼児期の教育に対する考え方の違いについての意見交換を行いました。また2023年度、私が「保育者の子どもへの寄り添い方」というテーマでベトナム幼児教育者向けに研

修会を行った際には、思いやり等の道徳性が培われる日本の幼児教育に強い関心を持たれ、日本と共同で行う保育についてさらに深く知りたいとの意見を頂きました。

今回のプログラムは、これまでの取り組みを踏まえ、日本幼児教育の基本及び特徴が多く盛り込まれた内容となっています。授業を提供する中でも学生の意見も大いにいただきながら、日本とベトナム両方の教育の発展に寄与していきたいと思っています。



■ 「認定絵本士資格」で絵本のスペシャリストに

2024年度入学生より、本学幼児保育学科において「認定絵本士資格」の取得が可能となりました。認定絵本士養成制度は、絵本専門士委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）が大学等と連携し、2019年度からスタートした指導者養成制度です。絵本に関する知識・技能・感性の3つの領域について講義や実技を通して学び、認定絵本士として必要となる資質・能力を修得することが求められます。

学生は本学の教育課程に位置付けられた授業科目の中で、絵本に関する30のテーマを学び、資格の取得を目指し

ます。大学教員だけではなく、絵本作家や編集者、おはなし会のプロなど、多彩なゲストスピーカーによる魅力的な授業を展開する予定です。資格取得後は、それぞれの職場や地域などで、実際に絵本を用いながらその魅力や可能性を伝え、地域の読書活動を充実させる役割が期待されます。また、認定絵本士資格をもつ保育者としても、子ども達や保護者、地域に向けて絵本の楽しさや魅力を発信していくことができ、その活躍が大いに期待されます。

認定絵本士の資格取得は、保育者を目指す学生にとっての自信やキャリア

幼児保育学科助教 畑山 朗詠

アップにも繋がると考えています。学生が絵本のもつ力や絵本そのものの魅力に気づき、感性を養い、保育者としての専門性を高められるよう願っています。



青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

■「小川原湖プロジェクト」ポロシャツをデザインしました

小川原湖の水質保全に取り組み、豊かな水産資源と地域文化を守る「小川原湖プロジェクト」。地域の象徴である湖を次世代へ継承し、持続可能な未来を目指す取り組みに、東北町役場から依頼を受け、プロジェクトで使用する共通のポロシャツをデザインしました。



デザインが採用されたのは、青森中央文化専門学校トータルファッション科2年・上野 七星さん。2024年3月21日、沼尾副町長様はじめ東北町役場職員の皆様にご来訪いただき、本校にて完成したポロシャツのお披露目となりました。



流域7市町村のキャラクターを使用したデザインのポロシャツは、小川原湖に関しての取り組み時、または町役場イベント等で着用されますので、是非ご覧ください。



■「Bunka Fashion Live 2024 -mirage-」を開催しました

2024年2月23日、フェスティバルシティアウガ5階 AV 多機能ホールにて、青森中央文化専門学校全学生によるファッションショー「Bunka Fashion Live 2024」が開催されました。学んだ知識と身につけた技術の集大成として、企画・デザイン・制作・構成・演出等の全てを学生がディレクションしました。

今年度は約4年ぶりとなる制限無しの開催となり、1部・2部ともにたくさんの方々にご来場いただきました。衣装だけでなく小物からウォーキングまで、全員が1年かけてよりグレードアップしたショーを目指し作り上げた、完成度の高いショーとなりました。また、ご来場いただいた観客の皆様のアン

ケート結果をもとに、「最も完成度が高かったテーマ」にアパレル専攻2年奈良岡 菜実さんのテーマ「mémoire」がグランプリに選ばれました。ファッションショーの様子は、青森中央文化専門学校公式YouTubeでご覧いただけます。ショー本編はもちろん、貴重な舞台裏や学生の素顔も垣間見えるような内容となっております。▲グランプリに選ばれた「mémoire」

右上の二次元コードよりアクセスできますので、ぜひご覧ください。



■ 学園感謝祭・針供養を行いました



2024年2月8日、青森中央文化専門学校では針供養にちなみ、「青森田中学園感謝祭」を実施しました。この日は1日針を休み、1年間使用した針への感謝と裁縫が上達するようにと祈りを込めて、折れた針、曲がった針を柔ら

かい豆腐に刺して供養しました。

また、神事に於いて各施設校で日頃から学習や生活に使用しているものを奉納し、感謝文を捧げました。感謝祭終了後は、廣田神社宮司の田川伊吹様より講話として神事についての由来や解説、針供養についてのお話をいただき、物に感謝する気持ちを再認識することができました。



Youtubeはこちら





2023年度研修旅行

コロナ禍のため、高校時代の修学旅行が中止となった学生が多く在籍していた2023年度2年生の待ちわびた研修旅行は、2023年11月6日から2泊3日の日程で、東京方面へ29名全員参加で実施できました。

天候にも恵まれ（特に11月7日は季節外れの暑さで、東京の最高気温は27℃）ながら、怪我・事故または体調不良等もなく、無事に帰青しました。

全体研修の東京証券取引所や、コースごとの日本銀行・くすりミュージアム・ANA見学等、貴重な経験となりました。インバウンドや移動・乗換等に戸惑いながらも、スカイツリーを客室から

見ることができる「浅草ビューホテル」でのおもてなし等、都会の実情・青森の良さを再確認する機会となりました。



青森中央経理専門学校 公開講座

2023年11月25日、青森商工会議所会館1階にあるAOMORI STARTUP CENTERにて、公開講座「教育費から

考えるライフプラン～青森県の進学事情とお金の賢い準備方法～」を開催しました。

奨学金関連の講演を数多く行っているファイナンシャル・プランナーの久慈拓也氏を講師に迎え、教育費の現状や青森県における進学状況などを織り交ぜながら、教育資金の準備に向けての手段等をお話していただきました。

参加者からは、「今からでも教育費に対する準備・対策をしていきたい」「数年前にこのようなお話を聞いていたら、

賢くやっていけていたと思う」などの感想がありました。参加された皆さま、ありがとうございました。



2023年度卒業発表

2024年2月19日、学術交流会館2階921教室にて、青森中央経理専門学校2年生を対象とした2023年度卒業発表を開催しました。卒業式を3月に控えた2年生29名全員が、会計科目・IT科目・キャリア科目・ファイナンシャル科目・医療科目・観光科目で学んだ、2年間の学習の集大成として、専門的・社会的なテーマを決め、プレゼンテーションソフトを使用しプレゼンを行いました。

また、今年度よりライブ配信を実施し、卒業年次の保護者の皆様と、学園内外の関係者の皆様に視聴いただきました。来場した参加者には評価シートを実施し、卒業式後の祝賀会では、優秀賞1名、努力賞3名を表彰しました。なお、表彰者は次のとおりです。

優秀賞: 鍋田 実咲（経理事務コース）

努力賞: 村上 華（観光コンシェルジュコース）

奈良 椎菜（医療事務コース）

原田 心温（経理事務コース）



附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化・浦町保育園

教育方針 健康で明るく心豊かな子ども ●友達と仲良く遊ぶ ●思ったことははっきり話す ●よく見、よく聞き、よく考える ●自分のことは自分でやる

附属第一幼稚園



「緑の羽根募金です!募金お願いします!!」
緊張したけど募金してもらえて嬉しかったよ!!



「ジャガイモさん大きく育てね♥」
みんなで大きくなるおまじないをかけたよ!



「新聞プール楽しくて大好き♪ママにもかけちゃうよ!」
お気に入りの新聞遊びを見つけてお友達と遊んだよ!

附属第二幼稚園



「このぼり集会」クラスのお友達と一緒に作った
オリジナルのこのぼりが青空に泳いだよ



「カラフル虫めがねで観察」
自分で作ったカラフル虫メガネを使って
お花の観察したらきれいな色のお花が見えたよ



「ダイヤモンド・プリンセス見学」
大きな船にびっくり♪青森に来た方に
金魚ねぶたをプレゼントすると喜んでくれました

附属第三幼稚園



～新年度スタートから2か月の顔～
(上)未満児の顔・顔、楽しいね♡
(下)何をしようかなあ



(上)春の香り～ こばと組
(下)大きな～れ つばめ組



桜吹雪が舞うよ!はくちょう組

中央文化保育園



三思園の創立記念で、よさこいを披露しました♪



看護の日のイベントで、聴診器をあててみたよ。



遠足は思いっきり楽しんできました!

浦町保育園



☆ラインメール青森選手との交流☆
かぶとむしの幼虫をもらいました☆



☆保育参観☆
おうちの方がたくさん来てくれました♪



☆中央文化保育園との交流☆
初めましてで、一緒にいもうえができました☆

日々の保育は常に笑顔で

私は青森中央短期大学附属第一幼稚園に勤務して4年目となりました。子どもの頃からずっと将来の夢だった幼稚園の先生になり、毎日子どもたちと楽しく過ごしています。

幼稚園生活の中で私の一番やりがいは、保護者の方と子どもの成長を一緒に感じることができることです。幼稚園で頑張ったことや日々の出来事を玄関先で保護者の方に話すと、嬉しそうにしていたりお家であったことを伝えたりしてくれます。

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園
佐々木 愛梨先生



子どもの幼稚園での小さい1つの出来事が保育者も保護者も笑顔になり、成長の喜びを感じられる毎日がとても嬉しいです。

今年度は1歳児の担任となり、小さいクラスは初めてなのでこれまでの保育経験を活かしながら、常に笑顔で日々の保育を行っていきたいです。

子どもたちの成長を感じられる喜び

昨年度、産休・育休を取らせていただき、4月より浦町保育園から中央文化保育園に移動となり、気持ちも新たにスタートしました。今年度は6年ぶりにクラスを担当することになり、2歳児の子どもたちと毎日楽しく過ごしています。

まだ成長途中なので言葉をはっきりと言うことが難しく、かわいい発言がたくさんあり、日々癒されながら保育をしています。できなかったことができるようになり、一緒に「やったあ!」「できたー!」と喜んだり、とびきりの笑顔を見せて

幼保連携型認定こども園中央文化保育園
山口 真菜美先生



くれて、子どもたちの日々の成長にやりがいを感じています。

私自身2児の母となり、自分の経験を活かしながら保護者の方の気持ちに寄り添い、身近な存在になれるように頑張りたいです。そして子どもたちが「今日も楽しかったあ」と笑顔で毎日を過ごせるように、これからもスキルアップを図って日々楽しみながら努めていきたいと思っています。

こどもの笑顔を第一に

今年度、中央文化保育園より浦町保育園に転勤となり、3歳児クラスの担任になりました。新年度が始まった当初、人数の多さに圧倒されることもありましたが、パワフルな子どもたちの元気な姿をみて、毎日たくさんの刺激をもらっています。

子どもたちが『明日も保育園に行きたい』と思えるように、遊びに工夫したり、コミュニケーションをとったりしながら、もっとたくさんの信頼関係を築いていきたいと思っています。ま

幼保連携型認定こども園浦町保育園
神 未優先生



た、クラス運営でも子どもたちが毎日のびのびと笑顔で活動できるようなクラスにしていきたいと思っているので、私自身が笑顔と子どもたちに負けないくらいのパワーを届けられる存在でありたいと思います。これからも、子どもたちとともに学び、成長していけるよう精一杯頑張ります!

読み聞かせたい一冊の絵本

くれよんのくろくん

なかや みわ さく・え (童心社)

子ども達に馴染みのある、くれよんを題材にした絵本。くれよん達はまっしろな画用紙にお花や蝶々、草、空などをカラフルに書き始めます。黒色は必要ない!と言われ、しょんぼり…。シャープペンのお兄さんに誘われ、書いた絵の上を真っ黒にしてしまいます。みんなは怒りますが、シャープペンのお兄さんの協力のおかげで…

この絵本を通じ、誰かを仲間はずれにせず、ひとりひとり違う個性をもった大切な存在であることが伝わる、あったかい一冊になっています。

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園 工藤 この美先生



2023年度 卒業式スナップ

ご卒業おめでとうございます。皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

青森中央学院大学・大学院
学位記・修了証書授与式
(2024年3月17日)



青森中央短期大学
学位記・修了証書授与式
(2024年3月15日)



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校
卒業証書授与式(2024年3月20日)



2024年度 入学式を挙行了しました

2024年4月、本学瑞力館にて、青森田中学園設置校の入学式を行いました。新入生並びに新入生のご家族の皆さま、あらためてお祝い申し上げます。充実した学生生活と皆さんの夢の実現に向けて、教職員一同努めてまいります。

青森中央学院大学・大学院

経営法学部160名、看護学部71名、大学院地域マネジメント研究科13名、別科助産専攻5名の合計249名の新入生を迎えました。



青森中央短期大学

食物栄養学科46名、幼児保育学科32名、専攻科福祉専攻5名の合計83名の新入生を迎えました。



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校

青森中央経理専門学校13名、青森中央文化専門学校14名の新入生を迎えました。



新教職員紹介

青森中央学院大学

* 経営法学部



准教授 **小関 一史** (こせき かずし)
 出身 埼玉県
 担当 政治学, 行政学, 現代政治論



講師 **榮田 育子** (さかえだ いくこ)
 出身 青森県
 担当 英語IE、キャリアプランニング(G)、
 探求の基礎



助教 **中村 万里絵** (なかむら まりえ)
 出身 東京都
 担当 民法総則、物権法、債権各論

* 看護学部



助手 **田中 雄大** (たなか ゆうだい)
 出身 青森県
 担当 成人看護学領域

青森中央短期大学

* 食物栄養学科



学長・教授 **山田 順子** (やまだ じゅんこ)
 出身 神奈川県
 担当 解剖生理学実験、解剖生理学講義



副手 **吉田 佑衣** (よしだ ゆい)
 出身 青森県
 担当 基礎調理学実習、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、子どもの
 食と栄養Ⅰ・Ⅱ、栄養指導論実習、解剖生理学
 実験、探求の基礎、郷土と文化

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園



蛸名 杏奈 (えびな あんな)
 出身 青森県
 担当 4歳児たんぽぽ組

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



小笠原 羽夢 (おがさわら うめ)
 出身 青森県
 担当 5歳児りんご組

幼保連携型認定こども園浦町保育園



千田 望結 (ちだ みゆう)
 出身 青森県
 担当 栄養士



石塚 麻純 (いしづか ますみ)
 出身 青森県
 担当 2歳児たんぽぽ組



榊 幸 (さかき さき)
 出身 新潟県
 担当 2歳児たんぽぽ組



岩崎 裕子 (いわさき ゆうこ)
 出身 青森県
 担当 4歳児ちゅうりっぷ組

事務局



青田 しのぶ (あおた しのぶ)
 出身 北海道
 担当 学生生活支援課(学習支援センター)



芦名 愛 (あしな あい)
 出身 青森県
 担当 総務管理部(庶務)



内海 薫 (うちみ かおる)
 出身 青森県
 担当 図書館



佐野 文章 (さの ふみあき)
 出身 青森県
 担当 学生生活支援課(こびし会館)



天間 碧生 (てんま あおい)
 出身 青森県
 担当 入試広報課



柳沢 美帆 (やなぎさわ みほ)
 出身 青森県
 担当 国際交流課

発行日: 2024. 6. 28

発行: 学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL: 017-728-0131

FAX: 017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>



「こぶしの花」
バックナンバー



「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

田中 雄大 福田 雅美

外崎 秀香 齋藤 雅美

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

蝦名久美子 町田美智子



学園報「こぶしの花」に投稿しませんか

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」に掲載する写真や情報を募集しています。学園に関する魅力的な作品やできごと等、在学生の皆さんからの投稿をお待ちしています。

■応募期間: 通年

■応募方法: 申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真・情報投稿」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し

写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■申込フォーム: <https://forms.office.com/r/SzQzdfPpKA>

■メールアドレス: acgukoho@aomoricgu.ac.jp

こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

